

赤い靴通信 421号

父が洋画好きで、私もよく同行しましたが、いまでも心に残るシーンがあります。「モロッコ」という映画です。マリーネ・ディートリッヒが砂漠に向かって戦争に参加する恋人のグリークーパーを追っていくシーンです。行進とともに消えていく太鼓のリズムがやがて消えていく様が忘れられません。古い話ですね。実は聖路加病院の故日野原重明先生が同じことを自分の本に書いておられることを前に発見したことがあるのです。エッ感動したシーンが同じなんだと、またそのことに感動したことがあります。

リズムは音楽の基本です、それにメロディーとハーモニーがついていくのですが、親が言うことには、私は子供の頃から太鼓の玩具が気に入っていたと言われましたからその傾向だと思います。中学に入った時、音楽の先生が音川仙八という方で、初めての音楽の時間にオーケストラの楽器の中で好きなものを言えというので、トランペットとかピッコロとかそれぞれ言いましたが、余り楽器に詳しくなかったので単純にドラムといったのです。先生は名前に音が付いているので音楽学校に入ったと言っておりましたが、やはり指導が上手であったし、ユーモアがあって楽しかったです。一般的な音楽の授業の後、当時流行した藤原義江の歌を歌わせたりしたのです。♪銚をおさめて日の丸上げてです。年代的にまだご存じ方がいるかも知れませんが、もう一つは「船出の歌」です♪どんとどんと波の越えてです。先生が歌って後を順番にということですが、曲は聞き慣れているのですが、とても声が出ないと思ってしまいます。私の前の坂本君が格好をつけて歌い始めました。上手いのです。とても無理だあんな声は出ないと思った矢先、松永と言われました。大きい声ではなく普通の声で歌いました。ところがとても上手く力強く出たので自分でも驚いたのです。今までのような声が出たことはなかったと思いますし、初めてでした。その日の学校の帰り道、友達と歌いました。「春ちゃん藤原義江ばりだよ」と言われ「冷やかすなよ」といいながら、まんざらでもなかった自分の声に驚き、嬉しくもありました。次の週の音楽の時間、先生が「坂本と松永はいい声しているな。2人とも商業止めて音楽学校を目指せ」と言われました。音楽関係だったら私はどちらかというと打楽器パーカッションのほうがいいと思いました。戦争で何もかも希望も振り出しになった時、紹介でPTOという駐留軍系の旅行案内を手伝うことになり、それも夜勤というのです。その時、音川先生のこと思い出して、新聞を見てみると入学試験はあると書いてありましたが、結果的に試験はなかったのです。終戦のごさくさくすべてがルール外でしたし、授業料も安かったため東洋音楽学校に行きました。生徒は少なかったし先生も沢山居ると思えませんでした。1ヶ月くらい行った頃PTOが変わって私は昼間の勤務に変わりました。仕事が必要ならば学費は無理なので学校は止めることになりました。

後年PTOを買い戻して見るに学校は日本で一番古い音楽学校で今では100年を越えていると言っています。その出身者も黒柳徹子さん、春日八郎さん、淡谷のり子さんなど有名な方が多いのです。今は、東京音楽大学と名を変えています。もしも私がその道を選んでいたら、野中正先生やザ・シワクチャーズ横浜、横浜☆男声合唱団の指導者・長登章子先生は私の後輩ですね。私は音楽が好きなのに余りその道の勉強が好きの方ではないのですが、それでも、横浜商業高校のブラスバンドで欠員を埋め、チューバを吹いて戦争中に出征兵士を送ったり、英霊を迎えたりしま



前回の「横浜三塔ねご物語」舞台



前回の「中区ダンスフェスティバル」舞台風景

第35期 赤い靴ジュニアコーラス定期演奏会

開催日：6月26日(日) 14:00 開演
会場：杉田劇場 / 全員ご招待！
観覧ご希望の方は上記赤い靴事務局まで
事前申し込みが必要です。



今後のスケジュール

★6月26日(日)
第35期
赤い靴ジュニアコーラス定期演奏会
会場：杉田劇場
出演：赤い靴テnderフット(ATF)
赤い靴ジュニアコーラス青隊、
赤隊Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
時間：14:00 開演 (開場 13:30)
※全員ご招待 (要事前申込制)

★7月31日(日)
第16回
中区ダンスフェスティバル 2022
会場：関内ホール・大ホール
料金：600円
時間：時間帯は後日ご案内します

★8/6(土)・8/7(日)
横浜市民子どもミュージカル
「横浜三塔ねご物語 2022」
会場：関内ホール・小ホール
公演は各日2回公演・全4回
※詳細は後日

★8/19(金)
「第16回東六忌」
会場：元町あかいくつスタジオ
※ザ・シワクチャーズ横浜 他

したし、社会人になって仲間バンドを組んだときは「ハワイアン」の時は「ウクレレ」その他の時はボンゴ、コンガのパーカッションで参加しました。このときのバンド名は当時来日した「ザ・スティローラーズ」に似せてメンバーが年配者なので「ザ・コレストローラーズ」と言いました。顧問先は老人ホームでお客様は同年代の方が多かったです。また、私は長さ2センチ4穴のハーモニーでフォスターの歌を吹く特技をもっています。自慢にもならないですけどね。とにかく思考的にも体質的にも音楽は分け隔たりなく好きです。6月26日(日) 杉田劇場で行われる第35回赤い靴ジュニアコーラス定期演奏会が待ち遠しいです。さてミュージカル「忍」はコロナ禍にも関わらず思いがけず大勢の方にお越し頂きました。この感染症に出演者も観客も細心の注意を払って迎えたおかげで感謝しています。また5月15日から横浜市民子どもミュージカル「横浜三塔ねご物語」の稽古が始まります。そして「中区ダンスフェスティバル」は16回を数え、中区、関内大ホール共催で7月31日(日) 関内大ホールで開催されます。引き続き出演者、観客の皆様へのコロナ禍対策に引き続きご注意をお願いいたします。

さて、先日、北海道新聞の横浜在住の記者が事務所に見えて赤い靴の像が北海道にも多いのですが、横浜の方のお考えをインタビューされました。先日、ジュニアコーラス青隊・長崎美緒さんの北海道のご実家からその記事「中高生まなぶん」が送られてきて、お友達の赤い・大飼結花さんとお母さんから記事をお見せ頂いたと連絡がありました。遠いところからのご縁を嬉しく思います。長崎さんから送られた新聞を裏面に載せました。※お詫び このところ赤い靴通信が月末に届かないケースが多くなりました。先月はミュージカル公演と一諸になって遅くなり、急いで4月11日(月)に横浜港郵便局から出しましたが、同じ中区の方に何と15日(金)に着いたそうです。早速問合せしましたら、横浜の郵便物は一度川崎局に送って整理してから、横浜に戻り配られるという事でした。今までの2・3倍の日数が掛かることがわかりました。なるべく早く着くよう努力します。

2022年4月30日 団長 松永春

中高生まなぶん……

電子版の教育コーナー

道新先生

検索



赤い靴 はいてた 女の子
異人さんに つれられて
行っちゃった

童謡「赤い靴」。耳にしたことがある人は多いと思います。約100年前の大正時代末期に、詩人の野口雨情(1882~1945年)が作詞した名曲で、雨情が北海道で聞いた話をもとに作られたなど諸説があります。ゆかりの地の後志管内留寿都村はじめ各地に記念の像が建てられています。

「横浜の埠頭(はとば)から船に乗って」と歌詞の2番にあるので、横浜港が舞台だと思っていました。北海道との関わりは意外でした。

「『赤い靴』が生まれるきっかけになったのは、雨情が札幌で新聞記者になった1907年(明治40年)、同僚の鈴木志郎の妻かよから聞いた身の上話でした。こう話すのはノンフィクション作家の合田一造さん(88)です。

合田さんの話などによる

と、かよは出身地の静岡県で18歳だった02年に未婚の母として娘きみを出産。新天地を求めて北海道で暮らすにあたり、開拓地の厳しい生活などを考え、きみを米国人宣教師夫妻に養女に預けたといいます。

05年に真狩村(現在の留寿都村)の平民社農場(社会主義運動家らが運営した農場)に入植。しかし、夫となった鈴木志郎ら10人前後での開墾は挫折してしまいます。同農場は約11畝の土地を5年で開墾し、成功検査に合格すると無償で付与されることになっていました。ところが、土地の条件が悪い上に農業経験者が少なく、また小屋の焼失や凶作など予期しない災難に遭うなどして、07年に解散に至りました。

鈴木夫妻は札幌に出て、志郎は就職した新聞社で雨情と同僚になりました。かよは野口夫妻と出会い、幼いきみを宣教師に託したことを話したといえます。雨情が上京して童謡「赤い靴」が雑誌に掲載されたのはそれから14年後の21年(大正10年)。作曲家本居長世の物悲しいメロディに乗って多くの人に歌われま

78 童謡「赤い靴」

入植者の預けた娘モデルか



北海道に渡って2年余り新聞記者をする直前の野口雨情＝北茨城市教育委員会(北茨城市歴史民俗資料館・野口雨情記念館)提供

①1979年に市民の手で建てられた「赤い靴はいてた女の子像」(横浜港) ②「赤い靴公園」に立つ「母恩像」 ③留寿都村教育委員会提供

歌詞のモチーフに諸説

「赤い靴」発表から半世紀後の73年、道内に住むきみの異父妹(鈴木夫妻の子)から北海道新聞に投書が寄せられ、すでに故人であった鈴木夫妻の入植後の足取りなどが書かれていました。「これに着目した北海道テレビ(HTB)のプロデューサーが米国に行つて取材し、きみを養女にした宣教師の存在を突き止めた。女の子が渡米して横浜港から出港しました。

た事実はありませんでした。その後の調査できみはわずか9歳で東京の孤児院で亡くなつていました」と合田さんは話します。

こうした話がきっかけとなり、留寿都村の赤い靴公園に91年、「母恩像」という女の子の像が建てられました。

「赤い靴」の創作には他の説もあります。明治時代以降、多くの日本人が米国移民として横浜港から出港しました。

「異人さんのお国にいるんだろう」という歌詞は、22歳で単身海を渡った雨情のいとこのことをベースにして書いたとも思われます。野口雨情生家資料館(茨城県北茨城市)代表で、雨情の孫の野口不二子さん(78)はこう指摘します。

不二子さんは祖母(雨情の妻)から「突然いとこの茂吉さんがやって来て、2、3日中にロサンゼルスへたちま

す、と言つた」と聞きました。中学生の頃から寝起きを共にした1歳年下のいとこの別れは「雨情にとつて想像を絶するような思いがあった」と不二子さんは察しています。

赤い靴記念文化事業団(横浜市)の団長、松永春さん(93)は「三者三様の『赤い靴』があつても不思議ではありませぬ」と話します。松永さんは横浜港に面した山下公園に「赤い靴はいてた女の子像」を市民の手で設置した中心人物です。「幼稚園児の時、帰国する外国人の先生を港で見送り、金髪で青い目の女の子が手を引かれて一緒にタラップを上る姿は、幼心に永遠の『赤い靴』を感じました」

さまざまなイメージを抱かせる「赤い靴」のすごさを感じています。